

平成 31 年度(令和元年度) 第 3 回古賀市図書館協議会会議録

会議名称：平成 31 年度(令和元年度)第 3 回古賀市図書館協議会

日 時：令和元年 10 月 29 日(火)14 時～15 時 30 分

場 所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 2 委員会室

主な議題：①平成 31 年度(令和元年度)前期(4 月～9 月)事業報告について

②第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画 進捗状況について

傍 聴 者：0 名

出 席 者：安部 由美子委員 村山 美和子委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員
久池井 良人委員 碓 幸子委員 亀川 代志子委員 諸井 ゆき子委員
以上 8 名

欠 席 者：0 名

事 務 局：5 名

配布資料：①レジュメ

②資料 1 平成 31 年度(令和元年度)図書館事業報告(4 月～9 月)

③資料 2 平成 27 年度～31 年度(令和元年度) 図書館の利用状況(4 月～9 月)比較

④資料 3 第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画進捗状況一覧表

⑤お知らせ 「ビブリオバトル」チラシ

1 開会のことば

(事務局)

全員お揃いですので始めさせていただきます。

こんにちは。図書館係長の前田と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
本日はご多用の中、古賀市図書館協議会にお集まりいただきましてありがとうございます。

まず資料の確認をさせていただきます。レジュメ 1 枚、資料 1、平成 31 年度(令和元年度)図書館事業報告。資料 2、平成 27 年度～31 年度図書館の利用状況(4 月～9 月)比較。資料 3、第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画進捗状況一覧表。お知らせとして、ビブリオバトルのチラシをご用意しております。

封筒の中には図書館要覧を入れさせていただいております。不足はございませんでしょうか。

では、本日も第 2 委員会室にて会議を進めさせていただきます。本会議につきましては、会議の公開制度に基づきまして、傍聴席を設けております。会議の内容につきましては、古賀市のホームページ上に公開されますのであらかじめ御了承ください。発言される時には、マイクのスイッチをオンにいただき、お話しいただきますようお願いいたします。終わりましたらオフをお願いします。スムーズな議事録作成のためご協力をお願いいたします。

それでは早速ですが、開会のことばを文化課長柴田より申し上げます。

(課 長)

皆さんこんにちは。お忙しいところご出席ありがとうございます。

早速ですが、平成 31 年度(令和元年度)第 3 回古賀市図書館協議会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 部長挨拶

(事務局) 続きまして、教育部長の青谷より御挨拶を申し上げます。

(部 長) こんにちは。本日は皆様大変御多忙の中、本年度3回目となります図書館協議会に御出席いただきましてどうもありがとうございます。

前回の協議会におきまして、図書館要覧の内容についていろいろ御意見をいただき、おかげさまで、図書館要覧を作成することができました。厚く御礼申し上げます。

10月25日から27日の3日間、第25回目の節目となります図書館まつりを開催いたしました。27日には、直木賞受賞作家の東山彰良さんの読書講演会には約110人の参加があり、大盛況でした。期間中は、委員の皆様にも御参加いただいたことと思います。ありがとうございます。図書館まつりについては、後ほど、担当から報告があると思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、本日の協議会は、レジュメのとおり、今年度上半期に取り組んだ事業報告と、第3次古賀市子ども読書活動推進計画の進捗状況についてが議題となっております。ぜひ委員の皆様からいろいろな御意見をいただきたいと思いますと思っております。

図書館が地域の情報拠点として、市民の皆様から信頼される図書館となるように、できるだけ多くの皆様に関心を持っていただけるよう、今後も市としても取組を行ってまいりたいと考えております。引き続き、委員の皆様には御協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。簡単でございますが、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 会長挨拶

(事務局) では、鈴木会長より御挨拶をお願いいたします。

(会 長) 改めまして、皆さんこんにちは。今、部長さんからお話がありましたように、25日から図書館まつりが開かれました。ぬりえや図書館クイズ等があり、大変盛会に盛り上がったということです。25回目の節目ということも含めて良かったと思います。スタッフの皆さん、改めてお疲れさまでございました。ありがとうございました。

このように、図書館はさまざまなイベントも含めて取組をしていくということ、積極的に働きかけ、工夫に満ちた方向で進めていくということ、攻めの方向で積極的に出すべきじゃないかなということを改めて思ったことでございます。

今日はこれまでの前期の図書館の状況、そして、子どもの読書活動の進捗状況について、まとめられたものがありますので、協議していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

4 協議等

(1) 平成31年度(令和元年度)前期(4月～9月)事業報告について

(事務局) それでは、協議に入ります。ここからは鈴木会長、久池井副会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(会 長) それでは、平成 31 年度(令和元年度)の前期 9 月までの事業報告を報告していただきまして、御意見をいただきたいと思います。事務局の説明をお願いいたします。

(事務局) 事業報告の前に、図書館要覧について御報告をさせていただきます。封筒の中に入れておりますので御覧ください。平成 31 年度の図書館要覧につきまして、前回 8 月の協議会で協議していただき、御意見をいただきました。事務局で整理いたしまして、修正できるところにつきましては、修正しまして作成しております。

主な修正箇所としましては、10 ページ、6 図書館の組織 予算・決算、1 番上の組織図のところに図書館協議会を加え、関連しまして 34 ページ、15 古賀市図書館協議会の項目を新たに加えて、協議会の設置趣旨や委員名簿、昨年度の活動実績等を紹介させていただきました。

戻りまして 22 ページ、12 読書活動事業の紹介の中で、小学生向けおはなし会とビブリオバトルの内容について少し説明を加えさせていただいております。

大きくこの 2 点につきまして加筆し、文字の訂正や数字のチェック、訂正等を行い、最終的に鈴木会長、久池井副会長に確認していただき、作成しております。ホームページのほうにも掲載してまいります。御協議ありがとうございました。

それでは、平成 31 年度(令和元年度)前期(4 月～9 月)事業報告をさせていただきます。資料 1 を御覧ください。

4 月 20 日、21 日、「子ども読書の日イベント」を実施いたしました。どんな本が入っているかわからないようにして年齢ごとに 3 冊ずつ本をセットしたお楽しみ貸出し袋を準備しました。44 袋の貸出しがございました。

「えいごとおはなし会」は、古賀市学校教育課外国語指導助手のオング・メラニーさんを講師に迎え、講師と職員が英語と日本語で交互に絵本の読み聞かせや手遊びなどを行いました。54 人の参加がございました。

「やってみよう！子ども科学実験」では、福岡教育大学の伊藤克治教授を講師に迎え、身近な材料を使った音と空気に関する楽しい科学実験を行いました。63 人の参加がございました。いずれも終了後には関連本を借りて帰られる子どもさんの姿が見られまして、図書館の利用促進につながったのではないかと思います。

4 月中旬から 5 月中旬にかけて読書ノート事業を実施しております。各小学校へ図書が出向きまして、新 1 年生に読書ノートの配布とおはなし会をしております。希望する学校へは図書館で図書館キャラクターのこちゃんを連れていきまして、こちゃんから読書ノートを手渡しました。約 600 人の子ども達に渡すことができます。

6 月 2 日には「講談社本と遊ぼう 全国訪問おはなし隊」、絵本をたくさん載せたキャラバンカーに訪問していただきました。キャラバンカーでの自由読書、会議室でのおはなし会を実施していただき、延べ 63 人の参加がございました。

6 月 16 日、23 日の 2 回にわたり、太宰府おはなし会代表の八尋理恵さんを講師に迎え、「読書ボランティア養成講座」を実施し、延べ 34 人の参加がございました。第 1 回は絵本の読み聞かせの大切さやボランティアとして気をつけることなど、講師自身の体験や実演を交えながらお話をしていただき、第 2 回は実技ということで、4～5 人の班に分かれ、各自読み合いを行い、最後に講師から指導や講評をいただきました。

7 月 21 日、市内地域文庫 6 団体による「おはなし会スペシャル」を実施し、95 名の参加が

ございました。それぞれの地域文庫が大型絵本の読み聞かせや人形劇を行い、参加者は最後に工作を楽しみました。多くの御家族での参加があり、喜んでいただきました。

7月26日には、小学生むけおはなし会「こわーいおはなし」と題しまして、図書館職員で開催し、13人の方に参加していただきました。

8月1日、7日、8日の3日間にわたって、古賀市中学生読書サポーター養成講座を行いました。この事業は5年目の取組になります。読書の楽しさや大切さを学校や地域に広めていくための読書サポーターとして活躍している中学生4人の参加がありました。おはなし会をテーマに講座を行い、おはなし会のプログラムを組み立て、練習を重ねまして、最終日にはこがめルームで小学生むけおはなし会を行いました。

8月21日には、平成30年度も実施されました「夏休み小学生向けプログラミング教室」を福岡工業大学短期大学部との連携事業として実施いたしました。今回は小学2～3年生と4～6年生に分け、学年に合った内容で2回実施し、延べ28人の参加がございました。

8月31日には、東医療センターと連携しまして、「図書館で学ぶがんシリーズ」を開催しました。平成29年度は肺がん、平成30年度は大腸がんについてお話をさせていただきました。今年のテーマは、肝臓病について勉強しようということで、41名の参加がございました。ここまですが9月までに終了している事業になります。10月以降はまた次回御報告させていただきますが、先週末にございました図書館まつりについて、少し報告させていただきます。

内容としましては、ブックリサイクルとぬりえコンテスト、交流館にて「古賀市立図書館移転開館25周年のあゆみ」パネル展、パネルを絡めた図書館クイズ、子ども図書館員には6人の小学生の参加がありました。小学生むけおはなし会については、8月に行った中学生読書サポーターのみでおはなし会を実施していただきまして、16名の参加がございました。25周年を記念した図書館バックの販売も開始しております。最終日に東山彰良さんの読書講演会ということで110名の参加がございました。

今後の予定としましては、今回、チラシを配らせていただいておりますビブリオバトルが今週末にございます。1月、「古賀市親子読書のつどい」、2月、「暮らしの講座 野菜づくりのコツと裏ワザ その5」等を予定しております。

資料1の下の方、月例行事の報告をいたします。

どうようおはなし会が参加者497人、1回平均19.1人です。赤ちゃんおはなし会は、20分を2回行っておりまして、参加者208人、1回平均17.3人です。小さい子のおはなし会が、参加者52人で1回平均8.8人、名画会は参加者209人で平均34.8人となっております。セカンドブック事業は8月生まれまで、240人中210人に配布しまして、88%の配布率となっております。その他の事業として、子ども映画会、年7回のうち4回実施済みとなりまして、参加者数66人、1回平均16.5人です。学校図書館市民開放用一般図書の配本は、市内小学校8校、中学校3校に月1回40冊までの配本を行っておりまして、現在までに計1387冊配本をしております。

次に、資料2を御覧ください。平成27年度から31年度の4月から9月の図書館利用状況の比較となっております。

上から貸出冊数、貸出人数、入館者数、新規登録数となっております。貸出冊数、貸出人数、入館者数につきましては、平成29年度までわずかに増えているところもありましたが、残念ながら、平成30年度以降、令和元年度につきましても減少しております。その中

で新規登録者数につきましては、昨年度を少し上回っております。以上です。

(会 長)

ありがとうございました。図書館要覧の確認もございました。

8月まで、図書館まつりのことも一部報告がありましたけども、資料1の関係で、参加者数等、各平均人数等も出ておりますので、この辺りのことを含めて、気づかれたところ、御質問等ありましたらお願いします。感想でも結構でございます。

(河村委員)

「図書館で学ぶがんシリーズ」に関しまして、私は実は正直に申し上げますと、医療に関することを図書館でやるというのは領域としていいのかな、病院の関係、市民部のほうかなと思っていました。疑問を持ちながら実際に参加してみると、前回の講義もとても良いものでした。

その後、そういう問題意識を持って、新聞とかいろんなものを見てみますと、専門家の詳しい方は御存じかもしれませんが、例えば朝日新聞の社説のところで日本全国で図書館が新たなプログラム展開をやっている。そして、多様な情報の拠点としてフィールドを広げているということでした。

私は図書館協議会委員を数年間やらせていただきながら、閉じたような意識があったんですが、朝日新聞の情報によりますと、長野県とか新しい試みが広がっているということです。我々が今ここで議論し、図書館でいろいろ企画してやってくださっていることが、基本的に全く正しい方向であり、今の新しい展開に則っていることを最近知って、認識不足だったと同時に、これでやっていけばいいんだという確認を得た気がいたしました。

がんのことを図書館の事業として展開することで非常に良いのは、市役所の病院関係の部門がやったとしたら、全く病気のことですね。そして暗く、我々もアクセスしにくいですね。ところが図書館が主催してくださることによって、明るい、前向きな気持ちで私はがんシリーズの講座を聞くことができました。

そういう意味で、一般の市民に、日本の死因のトップみたいな問題について、アクセスしやすい形で、一分野が開かれているというのはものすごく良いなと思いました。認識不足の反省も含めて、これをぜひ御報告しておきたいなと思いました。以上です。

(会 長)

ありがとうございます。新しい展開、新しい方向でどんどん進めていく、広げる。施設的には条件、限界はあるんでしょうけども、その範囲の中で、アイディア、工夫を出し合うということが大事ではないかということですね。

今、全体的な図書館の流れの中に次々に出されている医学の問題、なぜ図書館かという話ですけども、実は、図書館はもともと学問体系については分類的に全て網羅しているわけですね。そういう意味では、いろんな幅広いジャンルというのは、テーマとして今後必要じゃないかなと改めて思います。

(副会長)

今の話ですが、とても大事なことだと思います。教育部長の御挨拶のなかにも、地域の情報拠点という話がありました。今の図書館の役割は、本を読みに行くところだけでなく、情報拠点としての位置づけを大きくアピールして利用してもらうことが1番大事だと思いますので、この取組は素晴らしいと思います。

同時に、全国で医療関係の講座はかなりやっていますね。それも単なる医療の話だけで終わったら、どこの管轄かということになりますが、必ず図書館の本と結びつけることが

大事です。日頃、古賀市も東医療センターと連携し、相互に関係を持っていられたいと思いますので、その辺が大事だと思いますね。

医療だけでなく、法律や創業支援等のビジネス関係の講座を開き、コーナーを設けている図書館もあります。古賀市立図書館でいろんなことができるんだなということを知ってもらうことが一番大事じゃないかと思います。今後ともぜひこのような取組を進めていただきたいと思います。

ただ、定員がどうしても限られていますから、例えば利用者数がどれだけ増えたかという時には、講座はある程度の人数の制限があり、倍に広がっていくことはないと思いますので、中身の充実、満足度調査、そういったもので成果があらわれないかなと思うんですね。そうしないと、講座が昨年度も行われたし、その前も行われた、変わらないという話だともったいないと思います。昨年度より今年度、来ていただいた方が役に立ったとか、そのようなことを何かカウントできないかなとも思っています。

講座でアンケートとかはとられているんでしょうか。

(事務局) だいたい、このような講座を実施した場合にはアンケートをとって回収しております。

(会 長) 例えば今回はどんな状況でしたか。御意見など、もし参考になるようなことがありましたらお願いします。

(事務局) 男性、女性でいうと女性の方の参加が多く、年代的には70代の方、初めて参加したという方がほとんどでございました。参加した理由につきましては「テーマに興味があったので」ということです。今回の講座につきましては、「とてもわかりわかりやすい資料でよく理解ができ、よかった」ということや、働いている方にとっては土日開催だったのでとてもよかったということでした。

「今後どういったことをしてほしいですか」ということに対しては、コレステロールのこと、糖尿病、介護のこと認知症のこと、子どもの小児アレルギーについてなど、いろいろな意見をいただいております。

(会 長) ありがとうございます。それでは、今の件に関連しても結構ですが、その他に何か、一覧表に出されたもののなかで感想、御意見などどうぞ。

(諸井委員) 図書館に行くまでが皆さん遠いんですね。いろんな方と話しても、図書館は本を読むだけ、本を借りて読む、それくらいの認識しかないんです。

例えば広報こがでも、図書館のところは後ろのほうにちょっと書いてあるぐらいで、もう少し皆さんがすぐ見やすいようなところに書いてもらったらと思います。せっかくいろんなことをしてあるんだから、もっともっとみんなに知ってもらうためには、もっとPRしたほうが良いと思います。

(会 長) 場所をしっかりと確保して、アピール度を増したほうが良いということですね。どうぞ。

(副会長) 今の話ですが、広報こが「図書館だより」は普段は半分ですが、今回、頑張られて見開

きで出されましたね。これだと目立ちます。25 周年の行事があっているんだなあということがアピールできますよね。

市によっては広報に図書館特集を組んでもらうところもあり、そうすると行ってみようかなと思います。

私は東山彰良さんの講演会はとっても良かったと思いましたが、早々に満員になって入れないのではと思ったら、まだ空きがあるんですね。図書館の取組が今一つなのではなく、ここまでされていて、これだけ知名度がある方がいらっしゃっているにもかかわらず、また座れる余地があるというのが、アピールはなかなか大変だなと思いました。

皆さんに知っていただくのが大変だということと同時に、東山彰良さんの講演のなかで、大学生を教えていらっしゃって、「三島由紀夫のことも知らない学生さんも結構います」という話があって、三島由紀夫を知らないのであれば、「東山彰良さんが来られたから行ってみよう」とは若い方は思わない方が多いのではないかと思います。

今の話ですが、広報は非常に大事で、今回頑張りましたが、効果がなかったのではなく、ここに意義があると思っています。今後も何とかこのような形でアピールしていただきたらと思います。

ちなみに中学生読書サポーターも、小さい中で完結するのではなく、図書館まつりのなかできちんと位置づけていただいているのは非常に良い取組と思います。

(会 長) 先ほどの河村委員の医療講座についての御意見も含めて、ぜひもっとアピールを、しかし、努力はしていますという部分もちろんありますね。ほかにございますか。

(亀川委員) 私は、7 月 21 日のおはなし会スペシャルに演じる方で参加させていただきました。毎年いろいろな企画を考えてやっているんですが、今年は人数が多くて、私達もとても嬉しかったです。特に、親子で来られている方、お父さんの参加がとても多かったです。自分の子どもさんの面倒をよく見られていて、一緒に参加していました。いろいろなものにすごく喜んでくださって、後で「よかったよ」とか「楽しかった」というお父さん方の声を聞いてとても嬉しかったです。

本当に毎年、小さい子どもさんたちがたくさん来てくれるのが嬉しいことです。楽しく過ごすことができました。

(会 長) 他に、いかがですか。

(碓委員) 最近、中公新書で磯田道史（みちふみ）先生の『天災から日本史を読みなおす』を読みました。今、よく災害が起きており、古賀市は災害が少なくて住みやすいとはいうものの、いつまた古賀に災害が起こるかもわかりません。

昭和 28 年に古賀町に大水害があって、ずいぶん水に浸かったとお聞きします。最近、近所のお年寄りにお話を聞いているんですけども、覚えている方もいれば、引っ越して来られている高齢者の方も多くて、御存じの方が少ないんですよ。どの辺までが水に浸かって、どこは大丈夫だったのか、ハザードマップを見ていましたけどわかりにくく、本当にこれだけなんだろうかという不安もあります。

がん講座のように、災害講座みたいな感じで、古賀に焦点を絞って、昔は古賀にどんな

災害があったのか、これからどうすべきか、そのような特集を組んでいただきたいと思います。60年、100年単位で災害はまわってきます。書籍もあるだろうし、歴史資料館と提携すれば、古賀の資料があるのではと思います。

(会 長) なるほど、新しい試みとして歴史資料館との連携、コラボをしてはという部分ですね。

(村山委員) おはなし会スペシャルについてです。今年も参加させていただきましたが、小学生の参加が大変少なく、小さいお子さんばかりという感じです。

各地域文庫の方の出し物は、大変完成度の高いものであり、多くの人に来ていただきたいと思えるようなものばかりだったので、毎回ですけど残念に思っています。

9月1日に古賀市生涯学習「笑顔のつどい」がありました。このつどいで「星の子文庫」の加藤さんから研究発表がありました。

古賀市の5年生の全ての子ども達にアンケートをとり、子どもの居場所などについて研究されたそうです。自己肯定感の低いお子さん、不登校になったりしたお子さんが、実際は「自分は外に出たい」と思いながらも、なかなか外に出られない。地域とつながりたいと思いつつも、なかなかできない。そういう力がついていないというような状況がはつきりしているので、ぜひ、子ども達を地域で活動させていったほうがよいというようなお話だったんです。

私は大変心を打たれました。今は読書でもなんでも学校集中で、すべてかありません。しかしながら、子ども達がこれから生きていくためには、子ども達自身が地域に入り込みながら生きていかないといけないそうです。そういうことを考えれば、ちょっと面倒でも、地域の行事に積極的に小さいときから参加させるように、親御さんたちも考えていかなければならないのではないかと思います。効率化してしまっただけで、どうしても1番簡潔に短時間に、お手軽にできるかということばかり追求しているうちに、子ども達が、地域で活動できない、自分自身を満たすことができないというようなふうに変ってきていることを、私達も知って活動していかなければならないなと思いました。

つまり、おはなし会スペシャルにたくさん参加してほしいということです。ここに連れてくる親は、そこの認識、気持ちが高いんじゃないかなと思いました。以上です。

(会 長) PR、広報などもあるでしょうが、今指摘されたように、もっと関心を持っていただくには、どういう取組、働きかけが必要でしょうか。急にだと難しいかもしれませんが、学校ではいかがでしょうか。安部委員さん。

(安部委員) 先ほどの子ども達への働きかけも含めて、例えば、各学校の学童保育所に、出張サービスではないんですが出向いて行って、おはなし会などを催していただくとか、逆に学童保育所の子ども達を図書館に連れて行って、参加をさせるとか、そういった取組はできるのかなと思います。

それとまた別ですが、中学生読書サポーターの件で、せっかく中学生がこのようにサポーターとしての研修を受けて、おはなし会をするというようなことができるようになっていたのでしたらぜひ、小学校に来ていただくとか、小学生に、学ばれたことを読み聞かせとかそういったことで、交流もできるのかな、また、小・中の連携と言ったようなもので、

活動につないでいくっていうことも一つできるのではないかなというふうに思いました。

(会 長) ありがとうございます。校種を越えて連携ということで、中学生が小学校に、小学生が幼稚園、保育園にという例もよくあるんですね。園だけでなく、地域で子ども会と連携という取組もちょうちよく耳にしますね。そういった働きかけや広がりを通して、広報とマッチすれば、より良いのではないかということでしょうか。

(村山委員) 私が意見として申し上げたことは、今安部委員さんがおっしゃったことが基本にあると思うんですけども、もう一步、殻を崩して、公民館単位でと考えています。

公民館が一番近いからです。そこで、親御さんたちが行かうというような、そんなふうなところまで下りていかないと、結局は学校任せ、組織任せになってしまい、親御さんはもうそれで安心しているような感じになってしまいます。

学校では、それだけのものを今までに培ってきているんだけど、今いろいろなものを学校に求められて、パンク状態になりかけておりますよね。

思い切って、外に出すということも必要じゃないかと思います。そういう意味で申し上げました。

(会 長) 「保護者よ、もっと立ち上がれ」という部分があると思うんですね。真剣に今の状況自体を顧みて動こうという意味があるんじゃないかと思います。

他の件でいかがでしょうか。それ以外のことで結構ですが。

それでは資料2、図書館の利用状況のデータがありますので、これを御覧になって、御感想、御意見をいただきたいと思いますが、どうでしょうか。

先ほど、貸出冊数、利用人数、貸出人数が、これまでの状況から比較すると若干減っているということも御指摘がありました。新規登録者数は、少し上向いているんですけども、この辺りを御覧になってどうでしょうか。

(副会長) なかなか厳しい数字が並んでいるんですが、希望も見えるところがあります。4番目の新規登録数が今回伸びていますよね。一番手をつけなければいけないところではないかなと思うところが伸びているのが、この先希望が見えると思います。

特に伸びている月が4月、5月、6月ですね。新年度になっておそらく張り切って、今年度は図書館を利用しようと思われたと思います。この呼び込み、そのところは成功しているわけです。ただ、活字離れが進行しているから、なかなか厳しいですね。

他の図書館で、利用者数が伸びているところは図書館に別の設備があるんですね。やっぱりいろんなコーナーがあって、そこも一緒にカウントするとなれば伸びていきますが、図書館本体だけでは伸びにくいです。

ただ、これだけ数字が並ぶと、図書館が何もやっていないかのような印象を受けます。それで、先ほどからお話があったような、「満足度がここまで前より伸びている」とか、「新しいことにこれだけ取り組みました」とか、違う角度で切りとって、今されていることを評価するものを入れておかないと、厳しい数字だけを毎回並べることになりはしないのかなという心配をいたします。もちろん図書館本体自体を改善することはもちろんのことですね。

新規登録数といったところは増えていますので、そこらへんをうまい切り口で、先ほどから言っているような講座の新規開催などに関連づけられないかなと思います。

(会 長) なるほどですね。この事について、事務局で解釈、分析、こういう部分があるんじゃないかというのが何かありますか。もしあったら結構ですが、どうぞ。

(館 長) 先日も職員と講座について話したのですが、古賀市立図書館の構造としまして、滞在型という機能を単体ではなかなか持ち合わせておらず、お隣の交流館をセットで考えていけるようになると、今おっしゃっていただいたようないろんな活動が組めるのかなというようことは話しておりました。日常的に取り組むとすれば、講座と読書活動を結びつけたような取組というのが取り組めるところかなと思います。いろんなイベント等を図書館単体でやっていくのは厳しいため、連携が必要と思っております。後、こがめルームの活用については、図書の並べ方、子どもさんのスペースと大人のスペースの仕切りの問題など、若干改善の余地はあるのかなと思います。

評価指標につきましては、数字だけ見ていきますと、本当に、大幅に増えることはないだろうと、むしろ逆の方向に行くんじゃないかと心配しているところでございます。そういう数字がひとり歩きしますと、先日新聞でも読んだんですが、もう図書館が不要ない時代がそこまでやってきているんじゃないかと。「いや、そういうことはない」と、私自身は思っているのですが、それに勝る説得力のある評価指標を今から考えていかなければいけないけれども、それをどうしたらいいのかっていうのは、なかなか見つかりません。先ほどいただいた満足度、確かに、一つの指標として、これから検討していく価値があるかなと思います。

(会 長) 図書館のあるエリアは、古賀の総合的な文化施設になっているんですね。交流館、歴史資料館あるいは社会教育部門でのさまざまな施設等と図書館が一体化、隣接しているその部分の利点、良さをぜひ生かしてやっていかなければいけないということです。この利用人数が減る、増えるという問題については、施設だけでなく他のさまざまな要素もありますから、考えていかなければならないところは確かにありますね。

(副会長) 今、インターネットの時代になって、ふらっと図書館に行って借りるというよりも、図書館のホームページを閲覧し、インターネット経由で予約をして借りの方が今結構多いですよね。そういったインターネットの活用で伸びている図書館があることを私は知っています。それをここに加えるかどうかは別にして、一度いろんな面でも見られたらどうかと思います。

図書館はリーパスプラザと同じところにあるといいながらも、入り口が別ですね。これを良さととらえるか、そうでないととらえるか、とらえ方で違うと思いますが、読書環境をきちんと保つという意味では良いことです。でも、お互いに交流して相互に利用するということでは、ある種の壁になっており、どうすることもできません。

この間、東山彰良さんの講演会のと、同時に宮沢賢治の講演会と演奏会が開催されていました。同じ読書に関する講演会が同じリーパスプラザで同じ時間にあっていたんです。一番いいのは、例えば東山彰良さんの講演会に来られた方に、「実は今度宮沢賢治の講演会

もあるんですよ」とお知らせして、そちらも行ってみようとか、逆に宮沢賢治の会に行かれた方にお知らせするとかすると、お互いに行けるようになるんですが、どちらも読書の大事なイベントで、お互いお客様をとり合っている状態でした。

私もリーパスプラザこがに入った時に、宮沢賢治の講演会のスタッフの方で知っている方がいらっちゃって、「来てくださったんですか」と言われました。「私はこちらのほうに行きます」と言ったらがっかりされて、「どっちも関心があるけどなあ」と思ったところでした。同じ日の同じ時間帯にしたいという気持ちはよくわかるんですが、これをお互いに紹介し合えば少し、呼び込めるんじゃないかと思います。

もう一つ、東山彰良さんの講演会はリーパスプラザこがの中であったんですが、これは入館者数に反映するんですか。

(事務局) 入館者数には反映します。

(副会長) わかりました。

(会 長) インターネット環境については充実していますので、予約に使ったり、新着図書の状況等の情報を得るという点で、そういったことはこれからまた必要じゃないかなと思いますね。他に、よろしいでしょうか。それでは、前期の図書館事業関係についてはここまでにしておきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(2) 第3次古賀市子ども読書活動推進計画 進捗状況

(会 長) それでは次です。第3次の古賀市子ども読書活動推進計画を策定し、実践、実施しているわけですが、その後の活動の進捗状況について別紙がございますので、事務局から説明をお願いいたします。

(館 長) 早速説明をさせていただきます。古賀市では、国、県の動向を受け、「子どもの読書活動推進に関する法律」に基づき、行政や学校、家庭・地域が一体となって更なる子どもの読書活動の推進に取り組むために、平成18年4月に「古賀市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

平成24年には、子どもの発達段階に応じた効果的な読書活動を進めるため計画の改訂を行い、さらに、平成29年に読書習慣の確立、定着を図るために第3次計画を策定し現在に至っています。古賀市では、おおむね5年に1度の改訂を行ってきました。第3次計画の策定以降は、調査対象機関を変えて毎年子どもの読書活動を調査することとしています。

平成30年度は、古賀市役所関係課のみの調査を行い、ちょうど1年前の10月に、図書館協議会にて内容を報告させていただいたところでございます。

2年次にあたる令和元年度の調査では、これまで1度も調査依頼をしたことがなかった私立の保育園、幼稚園、こども園、幼児園に依頼したことにより、職員による読み聞かせ以外にも、保護者への図書の貸出しや、定期的な読書ボランティアによるおはなし会の開催、子どもの発達段階に応じた読書活動がいろいろ連携されて行われていることがわかりました。また、市内の高等学校の図書委員会や、読書ボランティアが市内の学童保育所にも読み聞かせに訪問していることなど、多様な連携による読書活動が行われている様子が

窺えました。

第3次古賀市子ども読書活動推進計画の26ページに、子ども読書活動推進の連携と協力のネットワークの図が示されております。子どもの読書活動を推進するためには、それぞれの機関、団体が個別に活動するだけでなく、家庭・地域、保育所、保育園、幼稚園、読書ボランティア団体、市立図書館、学校が、対等に連携と協力を行うことによって、さまざまな読書活動を推進していくことが重要だと考えています。

今回の調査報告につきましては、調査対象、取組の成果、今後の課題等についてまとめております。対象が広がったことから、別紙資料3の分量が41ページと大変膨大な量になってしまいました。簡単に説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

調査方法ですが、第3次古賀市子ども読書活動推進計画の31、32ページ、第5章「古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系」に基づいて、事業所ごとに、平成30年4月から令和元年度8月31日までにを行ったそれぞれの取組について進捗状況の報告を求め、その成果と課題をまとめています。資料3を御覧ください。

計画の柱1、2ページ、(5)学童保育所では、読書ボランティアや団体貸出しを有効に活用し、身近に本を置くことにより子ども達が本を手にとる習慣ができてきています。しかしながら、学童の人数が増えたこともあり、毎月図書館に本を借りに行くのが大変であるという課題が出ております。貸出期間や貸出冊数の柔軟な対応など、今後の検討の必要があります。

3ページ、(7)児童館の取組では、児童センターの図書が充実したことにより、読書コーナーの利用が増えてきました。令和元年度の夏は千鳥の児童センターに学習室が完備されたということで、今後さらに利用が進むことが期待されています。

4ページ、2 保育所(園)・幼稚園では、親子への絵本の貸出し、定期的な読書ボランティアによるおはなし会、年齢に合わせた計画的な読み聞かせ等で、子ども達に絵本や文字に対する興味関心がわき、耳で聞き取り、ストーリーを理解し、想像する力、集中力が身についてきています。絵本を丁寧に扱うことや保護者へのさらなる働きかけが課題となっているようです。

7ページからは、学校の取組になります。(1)学校図書館の運営から、(11)適応指導教室の取組までが小・中学校の取組として、(12)高等学校、(13)特別支援学校の取組として紹介いたしております。小・中学校では、ビブリオバトル、ブックトーク大会、POPの作成などの取組を実施しております。貯読通帳、スタンプカードなど、独自の工夫で貸出しを促す取組が行われています。

高等学校では、毎月いろいろなジャンルの本が読めるよう本を選定し、一学級分の複本を準備し、1か月かけて全員が朝読の時間に同じ本を読みきり次のクラスに回すという、オリジナルの朝の読書活動が継続されていました。

また、図書委員会による学童保育所への訪問朗読会では、大型紙芝居やプロジェクターを活用した朗読の取組が行われていると報告されています。

特別支援学校でも、市立図書館の団体貸出しを有効に活用した読書活動、読書週間、図書委員会の活動の充実ということが報告されています。

計画の柱2です。29ページを御覧ください。連携に関する部分になります。

図書館と学校との連携では、福岡県立図書館の学校貸出図書セットを利用し、安心して活用できると好評でした。調べ学習のための相互貸借や、図書館から団体貸出しも行われ、

提供資料の充実が図られています。

計画の柱 1 でも触れましたけども、その他にも、学童保育所や児童館、保育所(園)、幼稚園、特別支援学校など、幅広く団体貸出しが行われ、読書環境の充実が図られています。

読書ボランティアの活動も多岐にわたり幅広く行われています。図書館での読み聞かせはもとより、学校、学童保育所、保育所(園)、幼稚園など、定期的なお話し会や読み聞かせが行われています。

中学校での読み聞かせでは、中学生という思春期の子どもたちが、安定感や、安心感、幸福感を味わい、不読者に本の楽しさを伝える良い機会になっているということも報告されています。今回初めて調査した私立保育園でも、団体貸出しやボランティアの活用がなされていました。

そうした取組を支える読書ボランティアの活動基盤が、市内 6 か所の地域文庫の活動です。学校、家庭・地域の連携のかけ橋としての活躍があり、読書活動の充実が図られてきました。平成 30 年度は、読書ボランティア団体の優れた活動に贈られる「野間読書推進賞」をたけのこ文庫さんが受賞し、あすなろ文庫さんが古賀市男女共同参画フォーラムにて「輝き☆KOGAびと」の表彰を受けています。長年の活動に敬意を表するとともに、今後ますますの御活躍を期待するものです。

学校と家庭との連携としては、家庭読書(うちどく)と言われますが、取組が報告されています。毎月 23 日に 1 人 5 冊を貸出し、図書館だよりで告知している学校もあります。

古賀市親子読書のつどいの「家庭読書のすすめ」の講演会の開催は、取組のはずみになっているのかなと思っているところでございます。

計画の柱 3、36 ページでは、家庭読書の日啓発、普及の取組を報告されています。市内全小・中学校に定着するまでには至っておりませんが、長期休業や、読書月間に独自に家庭読書の日を定め、ポスターや図書館だより等で啓発し、親子読書に取り組んでいる学校も増えてきました。家読(うちどく)という名称で全国的な広がりを見せる家庭読書の取組は、読書を通して家族のコミュニケーションを図ることを目的としており、今後も充実、啓発していく必要があるかと思います。

学校では、図書委員会の活動で、POP で本を紹介し、おすすめの本の冊子づくりをするなどして、子ども同士の縦、横のつながりを通して、読書活動に取り組んでいる姿が見られました。子ども達から紹介された本は、貸出回数が増えているということが報告され、特に横のつながりを通じた啓発で興味・関心が増していくことが確認されました。

その他にも、各関係機関でさまざまな工夫を凝らした啓発活動が報告されていますので、後ほど御一読いただければと存じます。

古賀市では、連携、協力をキーワードに、古賀市内の子どもの読書活動が深まりさらに広がっていくよう、これからも関係機関の取組を支援し、あわせて進捗状況の調査を継続していきます。3 年次にあたる令和 2 年度には、読書ボランティア団体や地域コミュニティなどの子どもの読書活動についても調査をしていく予定です。

以上、簡単でございますけども、今年度の調査結果の報告とさせていただきます。

(会 長)

ありがとうございました。御丁寧に、そして本当にたくさんの資料をまとめていただくだけで大変なことでした。後でゆっくりまた読んでいただきたいんですけども、御報告された中で聞かれておきたい、ここはちょっと確かめたいなということがございましたら

出していただければと思いますが。

(淀委員) 先日、小野小学校の読書集会に招いていただけて行ってきました。ビブリオバトルで、各学年の子ども達が代表1名ずつ本を紹介したんですけれども、私が読んだことがあったのは6年生が紹介した『冒険者たち』だけで、あとは新しい本ばかりでした。子ども達が今どんな本を読みたがっているのかとか、貸出しが多い順からいくと漫画的な、挿絵が多くて文章が少ないような本が多かったりするんですけれども、本の好きな子が、自分の「これ」というものを紹介したので、とても参考になりました。また、子ども達の児童文学の本も勉強してみようかなと思ったので、大変参考になりました。

私は各小学校での読書集会やビブリオバトルで紹介してくださった本を一覧で知りたいたいと思いました。そういうのも図書館でまとめて表にして、「各小学校のおすすめの本はこの本です」ということで、図書館の本を目立つところに並べていただくとかすると、保護者としても読んでみようかなという気持ちになってありがたいなと思いました。

(会 長) ありがとうございます。他にどうでしょうか。

先ほど、私立の保育園についてまとめて書いているところがあったでしょうか。私立の保育園にも広げてっていう話が確かあったと思うんですが。

(事務局) 古賀市内に今、古賀市立の保育所は一か所しかございません。それ以外のところは全て私立の保育園ということになります。これまで調査をしたことがございませんでしたので、今回初めて私立の保育園や幼稚園などに調査をお願いしたところ、快く回答していただき今回調査用紙にまとめたところです。

(会 長) わかりました。どうでしょうか。第3次古賀市子ども読書活動推進計画が策定された後、策定委員会は解散し、その計画の進捗状況や子どもの読書活動の推進内容について、今後どういう形で見ていくかというときに、この図書館協議会で協議していこうということです。御理解いただきますようお願いいたします。何か気づかれたところありますか。大変丁寧にまとめていただいたんですけれども。はい、どうぞ。

(副会長) 今回、進捗状況の調査をこれだけの分量を集約されてまとめられるのは大変だったろうと思っています。ただ、私達も今この場で聞いてページをめくって頭に入るかという、目で追っておくだけで精いっぱいです。年に1回このような場がありますから、何かもつたいないなと思います。今回は膨大な量だったから仕方がなかったかと思いますけれども、ぜひ次回からは、事前に送っていただいて、内容を頭に置いておかないと発言しにくいというのが一つあります。

調査をすると、集めた側はこういうことがあっているのかということがよくわかるんですね。しかし提出した側は、相互にお互いどんなことしたかということが見えているのかなと思います。見えていなければ、自分のところの成果と課題で精一杯で、来年度はとなって、広がりがないのではと思います。組織の中での広がりはあるかもわかりませんが、自分たちに無かった発想とか、自分たちの取組の良さとか、そういったところをお互いに知り合うことが大事ではないかと思います。

1 番いいのは、福岡市であっているのですが、関係者の代表が集まって、このような内容で会議をするんですね。しかし、なかなかそれはしにくいところがあります。

2 番目は、これもやりにくいかも知れませんが、図書館のホームページ等の中に、主だったところの学校の特色ある取組とかのコーナー、参考にできるページを持っている場合があります。何らかの形でできるところから広がりを持ってもらったらどうかと思います。

29 ページ、課題の上から 5 番目に、福岡市の学校図書館支援センターのことが書いてあります。これに私は関わりましたのでお話ししますが、こう書いてあると、あたかも前からあって平坦にあったかのように見えます。しかし、学校図書館支援センターを立ち上げるまでも、なかなかこれは骨が折れました。新しい組織を一つつくることは大変なことです。

ただ、図書館本体の利用がもちろん 1 番なんですけど、学校図書館にとっても、市立図書館というのが大事な存在なんだということをわかっていただくいい機会になったと思います。人員などが限られていますので、できる範囲というのはもう限られています。

しかし、中心となるといったところでは、本の貸出し、団体貸出しもそうなんですけど、さっき言いましたように、お互いわかっている学校の取組の紹介するコーナーを設けたり、古賀の図書館に行けば少し相談に乗ってもらえとか、こういった情報をもらえとかといったところでもできれば良いのではと思います。

膨大な資料をこうして集めてあります。これは非常に大事なものだと思いますので、できるところから活用されたらと思っています。

(会 長) ありがとうございます。はい、どうぞ。

(村山委員) 私は第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画を策定するときに参加させていただいておりました。そのときに大変印象に残りましたのは、小学校、中学校ぐらいまでは本を読むけれども、それから先が続かないということが課題になっておりました。

この結果を見ましても、小学校、中学校、幼稚園などの先生方が、熱心に子ども達に関わってくださる様子はよくわかりました。しかし、それが子ども達のこれからの人生にどうつながっていくかということについては、そこまで考えての実践ではないように私は思います。これは大変難しいと思います。

持続可能というようなことがキーワードでよく出てきますけれども、今の状態がそう長く続くわけではないということ。じゃあどうしたら、将来、生涯にわたって読書が続けられるような子が育つかというようなことについても、それぞれの段階で、考えていく必要があると思います。

そうしないと、先生方、学校はすごいんですけれども、今を豊かにということで大変頑張られて、パンクしてしまうんじゃないかと思っています。

生涯学習というような観点で、子ども達が自分で本を選んで読書していくような態度、その育成あたりも頭に入れていかれると、少しまたやり方が変わってくるんじゃないかと思っています。その辺が何かこの推進計画の見直しで、よく見ていかないといけないところかなと思います。

(会 長) 本の配送、物流におけるネットワークと、人的な交流という意味でのネットワーク化ということがあると思うんですね。

例えば、今回の調査では、玄界高校や古賀竟成館高校等のデータも出ています。ということは、高校も意識的に関わっていただくということでデータが出たわけですね。今おっしゃったように、例えばどこかで年に1回2回、こういうデータなりをもとにして、悩み、課題等含めて状況を出しあうことは必要だと思いますが、立ち上げるのはなかなか難しいことだと思います。村山委員さんがおっしゃった懸念される件、どうつながって、子ども達を生涯学習に結びつけていくのかっていうところまで出し合う、考え合うということだけでも全然違うと思うんですね。

また、配送、物流というシステム、福岡市の例では学校図書館支援センターですが、教育委員会が受け持つかどうかは別として、音頭をとって、物流、配送をやるなどして、予算の限られた中で、学習なり、読書活動を充実させるという動きというのがこれから必要ではないか。人的な部分とそれから物流の部分、2点あるんじゃないかなと思います。

今言われたように、時間も余りありませんので、ゆっくり目を通していかなければいけないかなと思います。そういう意味では、今日のところはこのあたりかなというふうになってくるんですけれども、何かほかにぜひ聞いておかなければ、言っておかなければということがございましたらどうぞ。

それでは、以上で後半のこの古賀市子ども読書活動推進計画にかかわる協議についてはここまでにしておきたいと思います。ようございましょうか。

(3)その他

(会 長)

それでは、(3)その他、何か、皆さんのほうからこの件についてどういう状況になっているか、あるいはこの件について協議をしていただきたいということがありましたら、出していいただければと思います。なければ事務局のほうから、用意されたものをお願いします。

(課 長)

よろしくお願いします。

先ほどの資料3につきましては、膨大な資料ということで一生懸命職員が時間をかけてやっております、事前にお届けすることができませんでした。大変申し訳ございませんでした。できるだけお届けできるよう今後は努力したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局から3点ほど、お知らせ、御報告をさせていただきたいと思います。

1点目でございますけれども、来年の1月12日が例年古賀市の成人式の日になっております。来年につきましては、図書館と歴史資料館ともに臨時休館とさせていただきたいと考えております。もともと、成人式というのが市民を挙げて成人を祝うという趣旨ですので、リーパスプラザこが全体で取り組みましようということになりまして、会場に至るまでのいずれかで、図書館自体の御紹介とか、おすすめの本、歴史資料館の成り立ち、古賀の歴史などを紹介するような場を設けて、成人を祝うという形にしたいと思っております。

2点目でございます。以前に御意見を伺ったことがあるというふうに思っておるんですけれども、市立図書館を中心に、各学校と連携して取り組んでおります親子読書会についてなんですけれども、方法等について、いろんな御意見をいただいている部分がございますので、少し見直しを検討したいというふうに思っております。今のところまだ具体的にどうこうという話にはなっておりませんが、次回御報告できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、図書館の業務委託、ちょくちょく出てくるお話ですけれども、我々当局としましては、図書司書の職員を中心に市の直営をできるだけやっていきたいと考えております。窓口の一部委託という方法も当然あるんですけれども、現状でいきますと経費だけが膨らむという状態になりますので、今の形態を維持できればというふうに考えております。引き続き、情報の収集でありますとか研究については進めてまいりますけれども、来年度からあるいは再来年度からすぐに業務委託になるというふうには考えておりませんので、御報告をさせていただければと思います。以上でございます。

(会 長) 今の御報告について何かございましたら。はい、どうぞ。

(諸井委員) 業務委託じゃないのはすごく良いことだと思います。
やっぱりこちらの図書館の方たちでして頂いたほうがずっとずっと良いと思います。

(会 長) ぜひ、この方向でということでございます。
それでは事務局から、会議録の件と次回の日程の件についてお願いいたします。

(事務局) 会議録の公開についてです。
議事録の校正について御協力をいただいておりますけれども、今回は村山委員と淀議員をお願いしたいと思います。お忙しいところ恐れ入りますが、よろしくお願いします。よろしいでしょうか。ありがとうございます。
次回の開催日につきまして、2月を予定しております。2月18日火曜日いかがでしょうか。また、御案内を差し上げます。事務局から以上でございます。

(会 長) それでは、以上で議事すべて終了したということで、終わりたいと思います。
後は事務局のほうにお願いいたします。

(事務局) 1点、お知らせとして、ピンクの用紙をお配りしています。ビブリオバトルが今週末開催されますので、お時間ある方はぜひお越しください。

5 閉会のことば

(事務局) 最後に、閉会のことばを図書館長の久保田より申し上げます。

(館 長) 今日は本当にたくさん内容でございましたけれども、真摯に話し合っていただきまして、また、これからの図書館の方向性についてさまざまな御意見をいただきましてありがとうございました。
いただいた御意見をしっかりと持ち帰り、皆で協議して、また前に進んで参りたいと思います。ありがとうございました。